

# 大学における美術資料品の性格

五十嵐 嘉 晴 上 田 恒 夫  
川 本 敦 久 横 川 善 正

## 1. 調査した大学美術資料品の概要

### A 国内大学

#### ① 東京芸術大学

その芸術資料館には、美術関係の作品・資料が約4万1千点と音楽関係が約280余点収蔵されている。国宝や重要文化財に指定されている美術品は、40点にのぼり、我国有数の美術館の一つと言える。

その資料の整理・研究と同館の活動は、毎年

|             |       |
|-------------|-------|
| 指 定 文 化 財   | 40    |
| 絵画・東洋画真蹟    | 2,118 |
| 絵画・東洋画標本    | 5,022 |
| 絵画・西洋画      | 1,112 |
| 絵画・版 画      | 553   |
| 書 蹟         | 57    |
| 彫 刻         | 1,157 |
| 金 工         | 2,394 |
| 漆 工         | 1,225 |
| 陶 磁 器       | 745   |
| 染 織         | 206   |
| 建 築         | 160   |
| 考 古         | 443   |
| 学 生 制 作 品   | 5,142 |
| 雑 美 術 工 芸 品 | 559   |
| 雑 標 本       | 1,302 |
| 写 真         | 4,732 |
| 写 真 種 板     | 9,828 |
| 石 膏 標 本     | 2,840 |
| 拓 本         | 268   |
| 動 物 標 本     | 20    |
| 版 本         | 9     |
| 複 製         | 1,273 |
| 音 楽 資 料     | 279   |
| 学生制作品(音楽)   | 7     |

『年報』として公刊されている。所蔵品は、年間十数種の展覧会で公開されている。蔵品の内訳を昭和62年3月末で分類すると、左表の如くであり、全ゆる分野に亘っているのが解る。

昭和62年は、東京芸術大学の創立100周年に当り、その記念行事として美術資料品の展覧会が朝日新聞社と共同で催され、東京都内の5個所の会場に分散して展示があった。多くの卒業制作が出品され、その水準は極めて高いものである。油絵専攻が卒業時に提出させて来た歴代の自画像群は、独自のコレクションとして興味深いものがある。100周年記念展の内容は、3冊分のカatalogueとしてジャンル別に出版され、『油絵・工芸』(212頁)、『日本画・彫刻』(196頁)、『デザイン・建築』(179頁)があり、図版や解説やコレクションの歴史などが載せられている。こうしてその所蔵品は、大量な人口に膾炙されたが、こうした機会以外にも諸種の展覧会に多くの作品が借出されている。

#### ② 京都市立芸術大学

資料室は同大附属図書館内にあり、日本の古美術品をはじめ諸種の収蔵品がある。その中には、仁清や乾山や道八の焼物など、貴重な作品が含まれている。所蔵品は展示室に、随時入れかえて陳列される。

絵画作品の図録は63年度中に刊行される予定で、東洋画(中国・チベット・インド・タイなど)36点、日本画85点、油絵15点が載せられる。工芸品については今後順次図録を作成する計画であり、陶磁約300点、漆工品約120点と若干の染織品が収蔵されている。彫刻は約20点所蔵されている。以上の美術品を参考品と呼んでいるが、これ以外に卒業制作として日本画400点以上、油絵約40点、彫刻15点、図案・デザイン約120点程が収蔵されている。

注目されるのは、民族資料であり、昭和44年に同大学が『ニューギニア未開美術調査隊』を組織して収集してきた約270点の神像、仮面、楽器、土器などは、目録図版も刊行されている。また昭和60年には、134点の現代版画を掲載した目録も作成され、内外の第一流の作品と同大学が米国のニューヨーク州立大学の美術科との間での交換作品が、所蔵されているのが知られる。

### ③ 愛知県立芸術大学

芸術資料館を持ち、毎年各科もちまわりの分担で、美術資料品が購入されている。同大学には、ロダンの『バルザック像』やブールデルやグレコの彫刻、荻原碌山の『坑夫』など著名な作品があり、収集の主体は西洋美術となっている。しかしまた法隆寺壁画の模写品が作成されて、これは中部財団の援助を得て展示館が建設され、平成元年に公開される予定となっている。この様に、重点的な充実が見られる。

### ④ 沖縄県立芸術大学

この大学は発足して3年目なので、収蔵品は比較的少量であるが、図書館2階に展示室がある。内容としては、金城次郎の線彫文瓶、パナリ壺、芭蕉布、読谷山花織、紅型、東道盆など地元の各種（焼物、染織、漆器）の工芸品を取り揃えている。また附属図書・芸術資料館とは別に、附属研究所を持って研究態勢をととのえている。

### ⑤ 私立美術大学

武蔵野美術大学の美術資料図書館は、昭和41年に開設され、大学関係者の絵画・彫刻作品に加えて、内外の版画、中国・朝鮮・日本の陶磁器、椅子やポスターのコレクション、民族資料などが多数収蔵され、公開展示されている。

多摩美術大学附属美術参考資料館は、昭和57年に開設され、古代エジプト美術から現代美術まで、彫刻、絵画、版画、工芸、デザイン、考古資料などを収蔵している。特に、古代エジプト、ペルシャ、ローマングラスを経て18世紀のイギリスに至るガラスコレクションや、ポンペイ出土のローマン秤、古代エスキモー美術、古代アメリカインディアン資料、インドネシア染織美術が注目される。

### ⑥ その他の大学

東京大学教養部美術博物館は昭和26年に開設され、東西の美術、工芸、歴史、考古に関する資料が陳列されている。中でもマルセル・デュシャンの『大ガラス』の作成が注目される。また同大学の東洋文化研究所（本郷）にも、ペルシャの古美術などが多数収蔵されている。

京都大学文学部の博物館にも、美術関連資料が見られる。

早稲田大学演劇博物館は、昭和3年に作られて有名であり、舞台美術関係の資料も所蔵している。明治大学の考古学博物館（昭和27年開設）の所蔵する数万点の資料、国学院大学の考古学資料館や神道資料展示室にも、美術関係の資料が含まれている。武蔵野音楽大学には4千点を蔵する楽器博物館、文化学園には服飾博物館など、諸大学で固有の関連資料を収集しているところが少なくない。

### B 外国の大学

諸外国の大学でも美術館や図書館に美術資料品を多数蔵しているところが多いが、その内いくつかを取り上げると、次の様である。

アメリカでは、イエール大学にギャラリーが開設されたのは、1832年で、それは今日世界有数の美術館の一つとして、ゴッホの絵画、デューラーの版画などをはじめ、多数の名品と貴重な資料を所有している。プリンストン大学の美術館にも、ヨーロッパの作品を中心とした豊かなコレクションがある。カリフォルニア大学でも、バークレー校やロサンジェルス校をはじめ各校に美術館やギャラリーがある。

ボストンのハーヴァード大学の多数のミュージアムのうち、美術館としては三つあり、次の様な所蔵品を有している。アーサー・M・サクラ美術館（プレコロンビア、中国、朝鮮、日本、東西アジア、イスラム、エジプト、中近東、エトルリア、ギリシャ、ローマなどの美術）。フォッグ美術館（西洋彫刻・絵画・工芸・写真など）。ブッシュ＝レイシニング美術館（近・現代美術）。これら作品については立派な研究書・図録が数冊出版されている。

上記のものは総合大学における充実したコレクションであるが、美術単科大学としては、例えば、ニューヨークのクーパー・ユニオン美術館は、美術工芸大学の一部であり、テキスタイルデザインや装飾美術のコレクションで有名である。ロードアイランドの美術学校にも、多数のヨーロッパの名画などの他に堂々とした日本の古仏が所蔵されている。1809年に開設されたフィラデルフィアのアカデミーは、美術学校兼美術館であり、アメリカで最古のこの種の施設であった。ボストン美術館やワシントンDCのコーコラン美術館も、本来は美術学校を兼ねていた。シカゴのアート・インスティテュートも、世界屈指の美術館であるが、美術学校と演劇学校を有している。こうした事は、パリのルーブル美術館にも、付属の学校があるし、フィレンツェのミケランジェロの『ダビデ』像を有するアカデミア美術館も、美術学校のギャラリーであるなど、西欧では稀れな事ではない。

これらの所蔵品を説明する事は、大学の美術資料品という枠を超える程、美術館的であり莫大な資料群である。またこうした施設を枚挙すれば、限りがない。

## 2. 大学美術資料品の性格

### A 内容分析

各校により質と量にかなり大きな差があると共に、特色も一様ではないから、一括した評価は不可能である。但し一般的に言って、収蔵品の分野は多岐に亙っている事と、名品だけでなく資料的価値のものも含まれている。各大学が立脚する地域の作品を収集することが基本の一つと考えられて、沖縄芸大やアメリカの大学には、その意識が見られる。しかしながらアメリカの大学では、アメリカの美術資料の収集を上まわる他地域の美術のコレクションがある。例えばハーバード大学では、日本や中国の美術についてもヨーロッパのものと並んで優品が多く、日本の美術館でも仲々所有し難い水準のものがある。地域の作品収集が最大の目的とは必ずしもなっていない、むしろ国際的な領域に眼が向けられているのは、京都芸大、愛知芸大、武蔵野

美大、多摩美大などをはじめ、殆どどの大学の傾向である。その理由は幾つかあるが、教育資料として広範な観点の必要、一般美術館とは異質な特殊な資料による視野の拡大の必要などにも依ると考えられる。またその地域において、他の美術館が地元の美術を収集する事を方針としている場合には、一種の地域内分業ともいべき意識によって、地域以外の美術に特定の照明を当てる役割を大学美術館が果しているものとも言える。

大学の収蔵品に、その大学と関係ある芸術家の作品が、教官作品とか卒業制作とかの形で含まれるのは当然である。その中でも独自のコレクションとして注目されるのは、東京芸大の自画像群である。これは卒業制作と共に自画像の提出を求めて、それを収蔵しているものであるが、詳細は複雑なので省略する。これらは近代日本美術史の貴重な証言として、ユニークなものである。こうした独自のコレクション形成も、美術大学にふさわしいものである。

各大学のコレクションは、一定の分野や系統に集中した蔵品を有するが、それは意識的な収集や寄贈など様々な理由に依っている。特に大学としての特徴は、その大学の学術調査隊の成果とか研究・教育に携った歴代の指導的な美術研究者の熱意と推薦が影響している。例えば京都芸大のニューギニア資料とか、東京芸大のカップドキア壁画の模写とか、多摩美大のガラス器コレクションなどである。アメリカに於いても、イエール大学のドゥラ・エウロポスの資料などを始め、ハーバード大学でもかつて美術史家チャールズ・エリオット・ノートンや建築家グロピウスの指導で収集されたものなど、色々な特色を有している。こうした事から、大学コレクションは、必ずしも百貨店的に全分野の見本を取り揃えるべきものよりは、個性ある収集となっている。そしてそれがその大学の研究と教育の歴史を代表的に示す事にもなっている。この意味で、偏った収集に対しては単に批判を行なうのではなく、むしろ意義に応じて特色ある方策として考慮されるべき性質もあると言える。

## B 所蔵品の効果

大学の美術資料は、当然の事ながら、教育と研究の目的が最大の特徴である。実際に授業、演習を通じて学習の用に供されると共に、学生や教官の特定の研究目的にも活用される。それは学術的効用と芸術的効果の二面が認められる。実物を直に目前に接する事は、教育的便宜と研究意欲の促進に計り知れない力を与え、特に美術学校においては必須のものであるから、調査に示された様に諸大学でこのコレクションに力を入れている。但し教育・研究目的と言っても、短期的に具体的効果を生じるものだけでなく、長期的に諸関連において重要となっていく美術資料も多分にある。即ち、一見無意味とか無関係とか異質なものにも、直接的効用を求めるのではなく、やがてその貴重さが注目されるであろうと言う遠い射程で資料が集められるのも、大学らしい展望と言える。

所蔵品に関しては、長期的な時間を費して、一般に水準の高い研究報告が、継続的に作成されている。そのため、ある作品を研究するにはそれに関連する作品類のみならず、文献資料などの充実を伴うことになる。その為、大学らしい学術資料センターとしての機能が一層増進される。また関連資料の充実と言っても、全て必要なものを一機関で揃えるのが不可能な限界から、他の研究機関との協力の要請上、各所蔵美

術資料に基づいた研究交流が活発化する。

これら所蔵品は、一般に公開展示される事が多く、大学関係者だけでなく、広く市民や他の愛好者や研究者に文化的ならびに学術的便宜を与えている。また各種の展覧会や施設に出品を求められたり、図録や美術全集への掲載を求められる事もある。

その様な優品を蔵する事は、大学の象徴的表示として、その大学のステータスを高める事に連らなり、一種の宣伝的効果を生じている。東京芸術大学の芸術資料館やイェール大学のアート・ギャラリーやハーバード大学の美術館などがその代表的な例であるが、武蔵野美大や多摩美大の美術コレクションの充実も大学経営の一環に位置付けられていると考えられる。特に私立大学ではこの点で機動性ある対応が高まっているが、今後は大学間の競合が激しさを増して行くと考えられる時、こうした美術資料の充実は、大学の魅力と教育研究水準のシンボルとして、その大学の姿勢を示すものと言える。

大学の美術資料品の性格は、この様に様々な要素から形成され、その効果を発揮するものである。最後に指摘しておきたい事は、その蔵品の充実が一定の質と量を獲得し、恒常的に一般公開される様になると、色々な寄贈が増して来て自然に充実が進行する側面もあるという事である。

—昭和61・62年度金沢美術工芸大学共同研究報告—

(昭和63年10月8日受理)